



しずおか愛護

No.31 (平成29年12月21日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



=巻頭言=

福祉施策の課題と今後

静岡県知的障害者福祉協会
副会長 出水巖生
(三方原スクエア児童部)



前年度より福祉協会の副会長、ならびに児童発達支援部会部会長の任命を受け、また同時に東海地区会政策委員にも参加をさせて頂きました。早いもので2年が経とうとしていますが、各事業所で管理的立場にある方々の世代交代が進む中でこのような役割が与えられ、重い責任を負うのと同時に、様々な関係の中で広い視野を持ちながら、多くの事を学ばせて頂いたと思っております。

さて、知的障害に係る施策は、社会福祉基礎構造改革を基に平成15年に施行された支援費制度により大きく変化しました。様々な課題もありましたが、その根本は利用者の自己選択・自己決定を前提とした制度設計であったと思います。その後は、数々の問題を修正しながら制度改定が行われてきており、現在は、平成30年度の報酬改定に向けて様々な検討が行われています。障害児分野においては、この10年程で社会環境が大きく変化し、それに伴い児童や家庭を支える状況も変わってきました。家族の単位が縮小し地域との関係も希薄になる中で、様々な障害を抱える方への支えが成り立たず、障害児入所施設は、養護施設の様な社会的養護機能が求められ、職員の支援も障害特性への支援だけでなく、虐待等による愛着障害からの脆さへの支援に変化しています。困難な状況にある入所児童を支援する施設の責任は深刻ですが、通過施設として位置付けられた中であって、様々な関係機関との連携が求められ、広域に及ぶ守備範囲をこなすだけの職員配置は、保証されていません。また児童のみでなく、障害者サービスに繋ぐ仕組みや、実際に受け入れる資源も、明らかに不足している状況も、改善の見通しは立っておらず、課題は山積みであると感じています。

ただこれは、児童分野に限らず、他分野においても様々な変化に伴う課題が数多く挙げられています。上記したように報酬改定に向けた検討状況が現在公表されつつありますが、障害施策全体の国の財源も限りのある中で、現場の事業所や、何よりも支援が必要となる利用者に対して、十分に細やかな改定には至らない状況も見えてきています。そのような中で、今後更に地域住民がお互いに支え合う共生社会の実現が進められる事となりますが、私達としてもその流れの中でしっかりと専門性を持ち続ける必要があります。今年度は会長選挙も行われますが、静岡県知的障害者福祉協会としても今後の施策に向けて、何よりも福祉協会が、専門的機関である各部会が、なお一層協力し合い、力をつけてゆく事が求められるのではないかと思います。今後ともご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

第9回児童虐待防止 静岡の集い

児童発達担当理事 吉井 桐子



第9回児童虐待防止静岡の集いが、11月11日（土）に静岡県総合福祉会館（シズウェル）で開催されました。第一部では、静岡県伊東市出身のジャーナリストとして、家族・教育問題、児童虐待などをテーマに講演会・出版、テレビの専門家コメンテーターなどに活躍されている石川結貴氏による『傷つけられる子ども達に起きていること～虐待と家族崩壊がもたらす影響～』と題した講演が行われました。

現在社会の変化により、子ども・子育てに向けられる視線が変化しているという。「公園では自由な遊びが禁止され、子どもの声が騒

音とされるような空気感が強まっている。地域の人間関係が希薄化し、子どもを守るための基盤が揺らいでいる。虐待の背景には、貧困と雇用問題が関係している。孤立と虐待のない街づくりをするために、私達のできることは、あなたの想像力と行動力と突破力である。固定的なフィルターで判断せずに、相手の状況を想像する力を持つこと。身近な、そして小さな取組でも効果はある。自分だけの思い込みや一方的な視点だけでは、真につながることはできない。支援を必要とする人たちの気持ちや生活を想像し、あらたな道を開くための方法を探そう。」など、先生の話はどれも切なく、私達は何ができるのか、何からやればいいのか考えさせられました。



第二部は、快晴の中シズウェルから県庁を經由し、小梳神社まで市民への啓発パレードが行われました。先導は、今年も県立静岡商業高等学校マーチングバンドです。吹奏楽の軽快な音色に合わせ、華やかなカラーガード（旗）を先頭に、「虐待反対、子ども達を守ろう」と掛け声をかけ行進します。

県庁では、朝9時半に富士市中央公園をスタートした『オレンジリボンたすきリレー』が16時に子ども虐待防止の思いを込めてゴールしました。

この『オレンジリボンたすきリレー』は、子ども虐待防止の象徴であるオレンジリボン

をたすきに仕立てリレーすることで、皆の心を一つにすれば大きな力になることを証明し、子ども虐待防止への県民への呼びかけとその実現を目指しています。

第31回静岡オレンジマラソン大会を終えて

スポーツ担当理事 降矢 章治

「今年も雨だね。3年連続雨だね。」と10月28日(土)はこの言葉から始まりました。

天気予報で大会当日も雨の予報が出ており、3年連続雨天での開催ということで、今までの反省会で検討された内容も活かされ、万全の体制で第31回静岡オレンジマラソン大会を迎えることが出来ました。

今大会は、8歳から66歳の方まで118名の幅広い層の選手がエントリーされました。



まず、受付での選手皆様の意気込みのある表情から、この大会を楽しみにして頂いていることを実感しました。その後、ウォーミングアップを終えてスタート! 「走る」ということはシンプルですが自分との戦いになります。そんな一生懸命な姿が見ている方々にも想いが伝わり、力のこもった声援が飛んでいました。

また真剣勝負とは別に第30回大会から加わった500m競技では、選手の皆様はとても気持ち良さそうにトラックを走っていました。大会は雨でしたが、走り終えてからの選手の皆様からは、晴れ晴れとした笑顔と充実感が溢れていました。

今大会も多くのご来賓の皆様、ボランティアの皆様、各事業所の実行委員、協力委員のご尽力、ご協力のお陰を持ちまして、無事に大会を終えることが出来ました。ご協力頂いた全ての皆様、本当にありがとうございました。

第32回大会も出来るだけ多くの皆様に参加して頂き、大会を盛り上げていきたいと思っております。選手、実行委員、協力員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



主な意見

- ・ミスがあって当たり前の認識が、大切だとあらためて感じた。
- ・家族とのコミュニケーションを大切にすることは、大変参考になった。
- ・事例がありわかり易かった。
- ・緊急時の処理対策ができていないと感じた。
- ・管理者等があらためて研修すべき内容。
- ・福祉関係者と違う目線で話をしてくれたのは、良かった。
- ・もっと事例を聞きたかった。
- ・事例の詳細がわからなかった。
- ・資料の文字が一部見えなかった。
- ・防災の話もして欲しかった。

B グループワーク

◎満足度

良かった	普通	いまいち	良くなかった	無回答 未提出等
60	10	0	0	3

主な意見

- ・それぞれの施設ががんばっていることを確認した。
- ・いろいろな施設の話が聞けて良かった。
- ・グループワークは必要だと思った。
- ・情報の共有や意識・認識の一致が難しいことを感じた。
- ・同じ立場のメンバーだったので、話し易かった。
- ・午前の流れからKYTをやっても良かった。
- ・少し時間が長かった。

このアンケート結果から、当初のねらい通りの研修会が実施できたのではないかと思います。研修会の会場も広く、扱い易かったことも良かった点です。ただ、参加者の約4割が障害者支援施設の職員（他は、通所の生活介護と就労支援系の事業所が2割ずつ）であったことは、入所型ゆえに職員の危機管理に関わる意識がより高いのではないかと推察されますが、そもそものテーマ設定や研修会の広報が障害者支援施設職員“向き”になってしまったのではないかと感じました。

2. 平成28年度・29年度の活動の振り返り

28年度は、県知協加盟の全施設・事業所を対象に「危機管理に関わる状況のアンケート調査」を実施しました。（今回の研修で、「危機管理」は事故発生後の対応のことで「リスクマネジメント」は、事前の対応のこと、という概念の確認がなされたため、28年度のアンケートは、「リスクマネジメントに関わる状況のアンケート調査」に訂正しなければなりません…。）このアンケート集計の結果、施設・事業所の防犯設備、震災等の被災時の職員の確保、そもそもの業務遂行のための職員確保等の状況を、概ね把握することができました。そして、今年度の研修会でも、リスクマネジメントの取り組みの大切さを、再確認できたのではないかと思います。

「危機管理」の取り組みももちろん大切ですが、「リスクマネジメント」の取り組みについて、この約2年間の活動で得られた会員施設・事業所の情報や研修会での学びを、次回の機会に活かし引き継いでいけたらと思います。県知協という集まりだからできることを皆さんと考えていけたらと思います。

平成 29 年度職員研修所講座実施報告

人材養成担当理事 山下克広

平成 29 年度、本協会主催の職員研修所講座を 7 月から 10 月にかけて 6 講座（各講座 3 日間開講）で実施しました。講座並びに講師の先生方は以下のとおりです。

講座名	講師名	備考
心理学療法講座	福永 博文 先生	浜松学院大学短期大学部名誉教授 専門行動療法士 臨床心理士
絵画療法講座	落合 英男 先生	有限会社 きのいい羊達 顧問
音楽療法講座	野田奈津子 先生	音楽処ベルの木主宰 音楽療法士 ヴォイストレーナー
障がい者スポーツ講座	大塚 康夫 先生	公認 上級障害者スポーツ指導員
カウンセリング講座	杉本 好行 先生	静岡福祉大学 社会福祉学部・福祉心理学科 特任教授 臨床心理士
医療・看護講座	山倉 慎二 先生	重症心身障害児・者施設つばさ静岡施設長 医師

今年度も、開講時期が短期間に集中しないよう期間を 7 月から 10 月にかけて実施しました。カウンセリング講座は、長年にわたり講師をお願いしておりました西尾明先生から、今年度より杉本好行先生に講師をお願いしました。

講座会場は、「シズウエル」「あざれあ」「もくせい会館」を利用しました。絵画療法講座では、社会福祉法人見晴学園様（所在地：三島市）のご協力をいただき、実際に行われている療法に触れることができました。

また、障がい者スポーツ講座の 3 日目は雨天により実技を変更しましたが、オレンジマラソン大会（会場：静岡県草薙総合運動場）の運営に携わることで、実地研修として開講しました。

受講者数は、講座合わせて 169 名を数えました。講座別の受講者数は下の表の通りです。

【受講者数】

(人)

	心理	絵画	音楽	スポーツ	カウンセリング	医療・看護	総数
平成 26 年度	38	20	23	17	24	41	163
平成 27 年度	36	21	25	14	36	33	165
平成 28 年度	43	24	27	22	42	40	198
平成 29 年度	33	23	22	16	28	47	169

講座終了時、受講者に行ったアンケートによる、満足度並びに理解度は以下のとおりです。

【内容満足度】

講座の内容に「大変満足した」又は「満足した」と回答した方。

心理学療法講座 (91%)、絵画療法講座 (100%)、音楽療法講座 (100%)、障がい者スポーツ講座 (100%)、
カウンセリング講座 (100%)、医療・看護講座 (98%)

【内容理解度】

講座の内容を「理解できた」又は「ほぼ理解できた」と回答した方。

心理学療法講座 (97%)、絵画療法講座 (100%)、音楽療法講座 (100%)、障がい者スポーツ講座 (100%)、
カウンセリング講座 (100%)、医療・看護講座 (98%)

*各講座、満足度・理解度ともに高い回答となりました。

平成 29 年度研修所講座受講修了者は以下の皆さんです。(順不同・敬称略)

【心理学療法講座】

静岡県立富士見学園	深澤 信介	野菊寮	杉本 理紗
鷹身工芸社	内藤美和子	野菊寮	篠川 潤一
明学園	井上 雄貴	あさぎり	赤堀 僚
ワークスつばさ	浦野 由紀	佐野あゆみの里	鈴木 弘美
あかいし学園	小野田脩史	静岡市清水うしおワーク	齊藤 由貴
もくせいの家	池ヶ谷将平	総合地域サポートセンターひまわり	小池利絵子
駿東学園	齋藤 直人	まつぼっくり	山本 政世
静岡市清水うなばら学園	春田 剛男	はまおか作業所	笠原 慶徳
虹の家	見崎南菜花	そびな寮	杉山 玲子
赤松寮	増田 康宏	静岡市わらしな学園	鈴木 陽輔
望未園	西岡 文彦	ひかりの丘	望月 雅子
天竜厚生会アクシア藤枝	藏敷 志保	富士市立くすの木学園	佐野恵美子
みはらしの丘	鈴切 雄毅	吉原つくし	村山 良弘
ワークスうしぶせ	山田 潤一	オリーブの樹	袴田真由美
あまぎ学園	藤原 旭斗	富士本学園	遠藤 史織
いずみ	土屋由美子	ひめな	渡邊和香奈
沼津市立あしたか学園	小柳 考司		

【絵画療法講座】

駿豆学園	潮木 藍	だいとう作業所	赤堀 恵俊
光明学園	丸山 徳	静岡市わらしな学園	佐藤 千代
ワークスつばさ	鈴木 理世	さしだ希望の里	加藤 綾子
望未園	望月久美子	あきは寮	永田あさひ
碧の園	福井 絢子	くるみ共同作業所	山内 康代
富士明成園	築地 雪乃	いずみ	深澤 広樹
三方原スクエア成人部	木下 由香	みなみ	松本 靖菜
みはらしの丘	相場 京未	ふじあざみ	大川 正樹
みはらしの里	川原 孝紀	みはらしの里	加治 綾乃
みはらしの里	吉本 稜人	みはらしの里	勝俣美保子
みはらしの里	鳴海 剛	ウェルクさぶえ	藤原 桂子
菊川寮	長尾 香穂		

【音楽療法講座】

悠雲寮	勝俣江身子	菊川寮	伊藤 優子
駿豆学園	土屋 智也	静岡市わらしな学園	野沢万里奈
袋井学園	山際 美智	ゆいまある	鈴木美由起
望未園	方喰 里美	ひくまの	寺田 真美
あかいし学園	村松 良太	くるみ共同作業所	佐々木愛純
駿東学園	鈴木 麻美	いずみ	古長谷博美
碧の園	出口 宏也	沼津のぞみの園	岡本小百合
赤松寮	浅野 美月	すいせん	羽田 玲子
支援センターわかぎ	長谷川香緒里	みはらしの里	古瀬 楓
みはらしの里	久保田佳美	垂徳寮	沢田知佐江
ウェルクさぶえ	椎名 浩之	かすが	加藤さおり

【障がい者スポーツ講座】

悠雲寮	橋本 貴行	ワークスつばさ	佐藤麻利子
恵松学園	廣田あかね	そるとぼっと	鶴野智枝美
赤松寮	杉山 千恵	みはらしの丘	笹岡真由子
みはらしの里	岩崎 信	みはらしの里	鈴木 直人
静岡市わらしな学園	竹田 直幸	ひかりの丘	小野 浩志
たちばな授産所	秋山 琴翔	きぼうの里	篠原 芳彦
ゆいまある	池田 浩	はまぼう	宮城 彩
駿豆学園	出川 奈央	望未園	小長井幹夫

【カウンセリング講座】

あいあい学園	山崎 慶太	あまぎ学園	上島のぞみ
かがやき	半田 圭子	袋井学園	久保田光貴
静岡市清水うしおワーク	加藤 紀子	掛川工房つつじ	奥宮 教仁
総合地域サポートセンターひまわり	美濃部翔子	鷹身工芸社	宇佐美真紀
富士市社会福祉協議会		まつぼっくり	菊池亜友美
相談支援事業所	松田 敏子	アフターセンターくさぶえ	石田 大貴
光明学園	入澤香里奈	草笛共同作業所	柏原 健人
駿東学園	堀内 理恵	静岡市わらしな学園	大村 佳澄
赤松寮	村松 瑞穂	吉原つくし	石川 訓子
のぞみの家	土屋 雄二	きぼうの里	福田 紘二
トミーズ	海野 晃代	ゆいまある	栗田 百江
ガゼルの森	岩本 翠	いずみ	大庭 裕介
三方原スクエア成人部	河合 宣利	はまぼう	天野佳代子
みはらしの丘	鈴木 圭織	はまぼう	酒井 浩子
ワークスうしぶせ	石原あけみ		

【医療・看護講座】

富士和光学園	木村 祐太	碧の園	寺岸 洸一
悠雲寮	高崎 光	富士明成園	遠藤 悠菜
エンゼルらんぷ	斉藤由美子	天竜厚生会アクシア藤枝	鈴木真由巳
駿豆学園	朝香由起子	三方原スクエア成人部	出水 里美
らぼ〜と	吉川 真弓	みはらしの丘	松尾 佳子
らぼ〜と	伊藤 倫子	掛川工房つつじ	山本久美子
みすず	田中千夏子	かがやき	伊藤 真里
鷹身工芸社	福島 智子	すいせん	黒柳 秀治
富士市社会福祉協議会		佐野あゆみの里	平野恵美子
相談支援事業所	田中 理香	わかば園	森田 麻弓
三方原スクエア成人部	横田 佳澄	静岡市清水うしおワーク	富田利記枝
望未園	植原 知子	支援センターわかぎ	新村 直由
望未園	小松原志保	あそーと	中川めぐみ
もくせいの家	八木 梨冴	アフターセンターくさぶえ	大池紀久野
駿東学園	久保田八重子	アフターセンターくさぶえ	栗林 祥子
静岡市清水うなばら学園	平野名加世	いずみ	西村 由合
ウェルくさぶえ	伊藤千賀子	はまぼう	下條 妙子
沼津のぞみの里 風間重徳		はまぼう	平野由里子
富士宮市立あすなろ園	佐野美奈子	静岡市わらしな学園	細澤みゆき
静岡県立磐田学園	大石早恵子	あきは寮	山崎梨恵子

ひめな	榛地 清美	沼津のぞみの園	中西 英里
沼津のぞみの里	武藤 美帆	きぼうの里	中村 忍
赤石寮	珠久 智衣	でら〜と	長橋 香苗
ゆいまある	久保田湧麻	ひくまの	鈴木 秀和

《 編集後記 》

インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症、いかがでしょうか？私たちの法人は、伊豆半島の先端に位置しているせいか、例年、県内の流行より遅れて始まります。毎年、紅葉便りのように、徐々に南下してきます。どうか今年は、天城を超えませんかようにと祈っています。報酬改定等の情報は、すぐに天城を超えてほしいと思いますけど・・・、いつも通り、ぎりぎりでしょうけどね。

しずおか愛護 No. 31 をお届けします。 良いお年をお迎え下さい。

(広報担当 三田充彦)